

2 個別目標シートの見方

基本構想に掲げた「将来都市像」や「まちづくりの基本目標」の実現に向けて、各分野の個別目標（なりたい姿）をワンフレーズで表しています。

各分野の個別目標（なりたいまちの姿）を具体的に表したもので、5年後（2027年）の高浜市が「こんなふうだったらいいな」、「こんなふうにしていきたい」という「まちづくりの基本目標」の実現に向けての方向性を示しています。

5年後の目指すまちの姿の実現を考えるにあたり、高浜市の現状がどうなっていて、5年後を見据えた課題としてどんなことがあるのかを表記しています。

現状や課題などを分かりやすく示すためのグラフや図などを掲載しています。

個別目標の取組みと関連しているSDGs*のアイコンを表記しています。

▶基本目標1 手を取り合ってみんなでまちをつくらう

目標(1) 協働推進

個別目標

ずっと住み続けたいまちを
みんなで一緒につくりま



この施策が目指す5年後のまちの姿

- ◇高浜市に暮らすみんなが、まちの課題や目標を共有しています。
- ◇まちづくりに参加したい、まちのために挑戦したいという人が気軽に活動を始められ、将来のまちづくりを担う人材が増えています。
- ◇自分のためだけでなく、誰かのため、まちのために自分ができることをし、活動することで、みんながゆるやかにつながっています。

この目標分野の現状と5年後のまちの姿の実現を見据えた課題

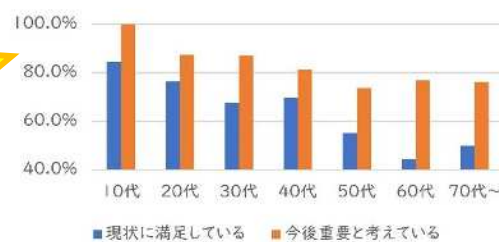
《現状》

- ◆地域活動の活性化とコミュニティの形成について若い世代ほど重要と考えているが、50代以上で現状に対し満足していないが、重要とも考えていない傾向にあります。
- ◆10代・20代は高浜市に住み続けたいという意識が他の年代より低く、若い世代ほど高浜市への愛着が薄いといえます。
- ◆20代は、転入、転出者数が他の年代よりかなり多いことから、居住年数が少なく、まちへの愛着（シビックプライド）が醸成されにくい状況であると考えられます。
- ◆深いつながりや負担を要するコミュニティに属することを望まない方も多くいます。
- ◆かつては協力・助け合わなければできなかったことが、民間サービスや技術の進歩により、個人で解決できるようになりました。
- ◆地域団体の加入率が低下する中、役員の成り手不足も深刻化しています。

《課題》

- ◇ゆるやかにつながれ、いざという時には協力し合える風土をつくる必要があります。
- ◇特に若い世代に対するシビックプライドの醸成を促進する取組み（応援・きっかけの創出）が必要となります。
- ◇時代の流れにあわせて、地域のデジタル化についても進めていく必要があります。
- ◇災害などいざという時はアナログな助け合いが必要となります。
- ◇まちづくりの担い手育成や発掘に取り組んでいく必要があります。

地域活動が活発で良好なコミュニティの形成に関する意識



出典:市民意識調査

高浜市に長く住み続けたいと思う人の割合



出典:市民意識調査

「この目標分野の現状と課題」と「目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標」は、計画策定時点での現状と課題の状況認識と取組みの達成状況を示しています。

こんなことに取り組みます

■ まちの課題や目標を共有します。

- ・高浜市の目指す将来都市像とその意味を積極的に発信します。
- ・まちの課題について語り合い・共有する場を創出します。

■ 誰かのため、まちのために活動する人や団体、企業を応援します。

- ・若い世代のちょっとした挑戦を応援できる仕組みの構築等、既存の支援制度を見直し、より効果的な支援を行います。
- ・定年延長等、地域に関わる年齢が高齢化する中、働きながらも地域デビューできるきっかけづくりや意識啓発を行います。
- ・デジタル技術の導入など活動の負担軽減を図れる仕組みを協働で研究・実施します。

■ まちづくり活動を通じて、ゆるやかにつながる風土を育みます。

- ・まちづくりに関わるインセンティブ*の付与、活動の発表会やコンテスト等、まちづくりに興味・関心を持っていただける仕組みを構築します。
- ・町内会やまちづくり協議会活動、企業の地域貢献活動などを積極的に発信していくことで、コミュニティ活動への参画促進を支援します。
- ・時代にあったコミュニティ活動のあり方を市民・地域団体と一緒に考え、実現していきます。

「この施策が目指すまちの姿」を実現するための取組みの方向性を示しています。

◎「この施策が目指すまちの姿」の達成度合いを示す目安として「まちづくり指標」を設定しています。

◎現状値は、各々の指標に関する直近のデータです。

目指す姿にどれだけ近づいたかをはかるまちづくり指標

目標の達成度を測る指標	現状値 (2022)	目標値 (2027)
高浜市が目指すまちの目標（キャッチフレーズ）を知っている人の割合	36.3%	100%
最近1年間で高浜市 ^{まち} のために活動をしたことがある人の割合	30.0%	60%
まちづくり協議会の活動に関わったことがある人の割合	26.6%	50%

各担当部局が管理している関連する個別の計画を掲載しています。

[関連する個別計画等]
◇地域計画(各小学校区)

[力をあわせて住み続けたい高浜市をつくろう]

一人ひとりにできること

- 高浜市公式LINEに入ってつながろう。
- 自分の得意なこと、やりたいことを地域に活かしてみよう。
- 地域のお祭りや行事に参加しよう。
- いろいろな場に顔を出して、地域に出るきっかけを探してみよう。
- 子ども食堂のことを知ろう、そして応援しよう。

◎目標を達成するため、市民一人ひとりでもできることがあります。高浜市の未来を描く市民会議で検討した、市民一人ひとりができることが記載されています。できることからやってみましょう。

みんなのできること

「みんなのできること」は各まちづくり協議会で作成している地域計画の一部を抜粋して掲載しています。掲載しきれていない項目もありますので、詳しくは各まちづくり協議会地域計画をご参照ください。

- 地域住民の様々な特技を活かし、小さな困りごとの解消や小規模な業務を請け負うことで、自主財源の確保につなげ、交付金のみに頼らず独自のまちづくりに活かしていく。
- 困りごとや相談事がある住民に対し、気軽に話ができるような「かきこみ寺」のような場を創出する。
- まちづくりに関わるやりがい・楽しさを広め、まちづくりを担う人材育成に取り組む。
- 校区内の団体相互の連携・協力関係を育む。
- 団体の課題や問題をざっくばらんに協議しあえる場をつくろう。

◎目標を達成するため、一人では無理でもみんな力で力を合わせればできることがあります。まちづくり協議会が策定している「地域計画」からみんなのできることを抜粋して、記載しています。



▲高浜市の未来を描く市民会議



▲ざっくばらんなカフェ